

2023年3月期 決算説明会

FYE2023 Financial Results Presentation



NIPPON SEIKI

2023年 5月 31日

May 31, 2023

■ 2023年3月期 決算概要

FYE2023 Financial Results Summary

■ 中期経営計画達成に向けた取り組み

Medium-term Growth Strategy

■ 2023年3月期 決算概要

FYE2023 Financial results summary

■ 中期成長戦略

Medium-term Growth Strategy

Unit: Company

	'23年3月期 第2四半期 FYE2023 2Q	'23年3月期末 At the end of FYE2023
Japan	9	11
Americas	5	5
Europe	3	3
Asia	16	16
Total	33	35

Unit: Million yen

	'22年3月期 FYE2022	'23年3月期 FYE2023	増減率 Increase/Decrease ratio
売上収益 Net sales	223,621	275,776	+ 23.3%
営業利益 Operating profit	- 4,276	2,840	—
税引前利益 Pretax profit	- 1,399	6,490	—
親会社の所有者に帰属する当期利益 Net income attributable to owners of the parent	- 5,180	1,380	—
基本的 1 株当たり当期利益 Net basic earnings per share	- 85.88 yen	22.87 yen	—
為替 (US\$) Exchange	112.39 yen	135.50 yen	23.11 円安 Yen depreciation

為替レート（期中平均）実績

Actual exchange rate (average for the period)

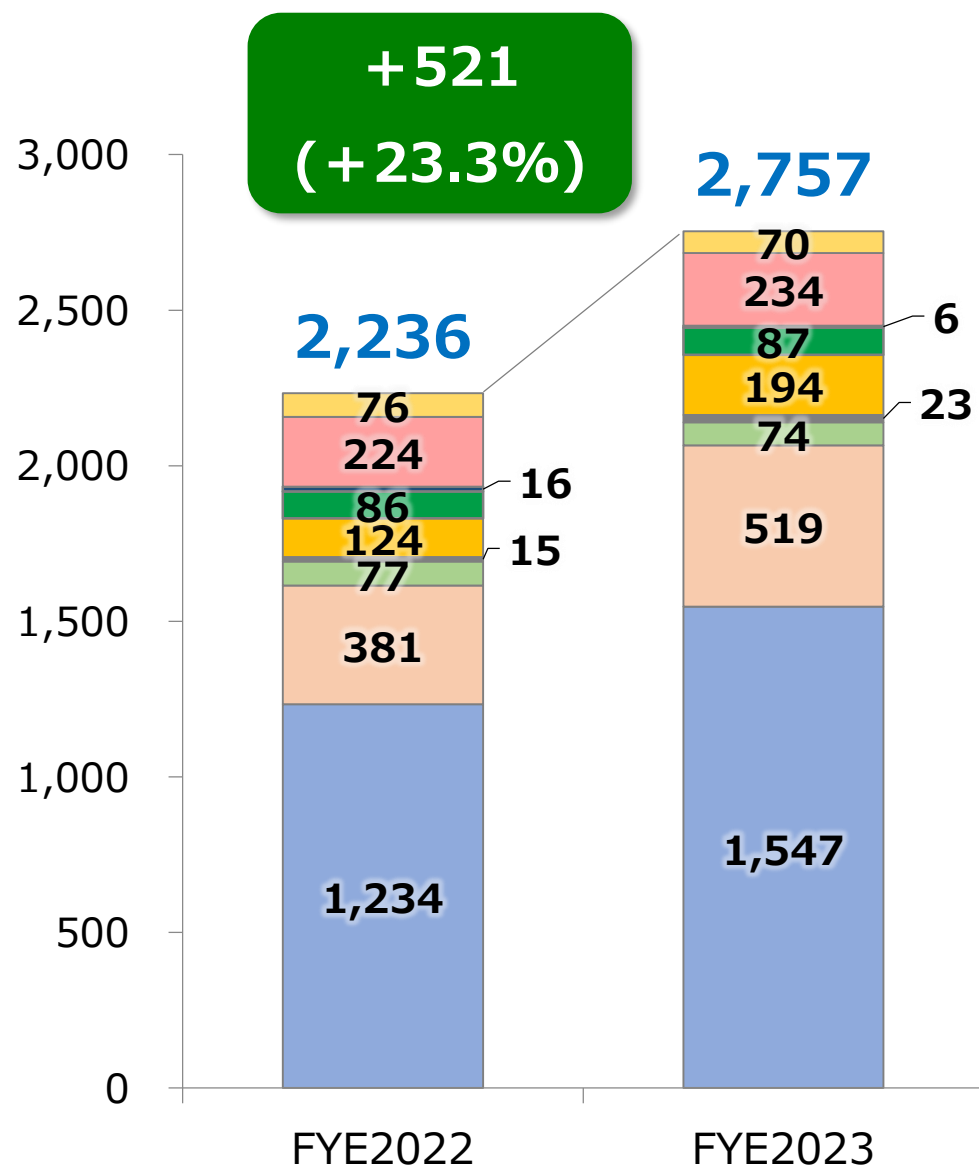
Unit: Yen

		'22年3月期 FYE2022	'23年3月期 FYE2023	レート差 Rate Increase/Decrease	増減率（-は円高） Increase/Decrease ratio (Minus is the yen appreciation)
USドル	USD	112.39	135.50	23.11 円安 Yen depreciation	+ 20.5%
ポンド	GBP	153.52	163.20	9.68 円安 Yen depreciation	+ 6.3%
ユーロ	EUR	130.55	140.99	10.44 円安 Yen depreciation	+ 7.9%
バーツ	THB	3.44	3.84	0.40 円安 Yen depreciation	+ 11.6%
元	CNY	17.51	19.75	2.24 円安 Yen depreciation	+ 12.7%

為替感応度：ドル1円の変動につき、営業利益で0.26億円/年

Exchange rate sensitivity : 26 million yen/year in operating profit for every 1 yen change in the dollar.

Unit: 100 Million yen



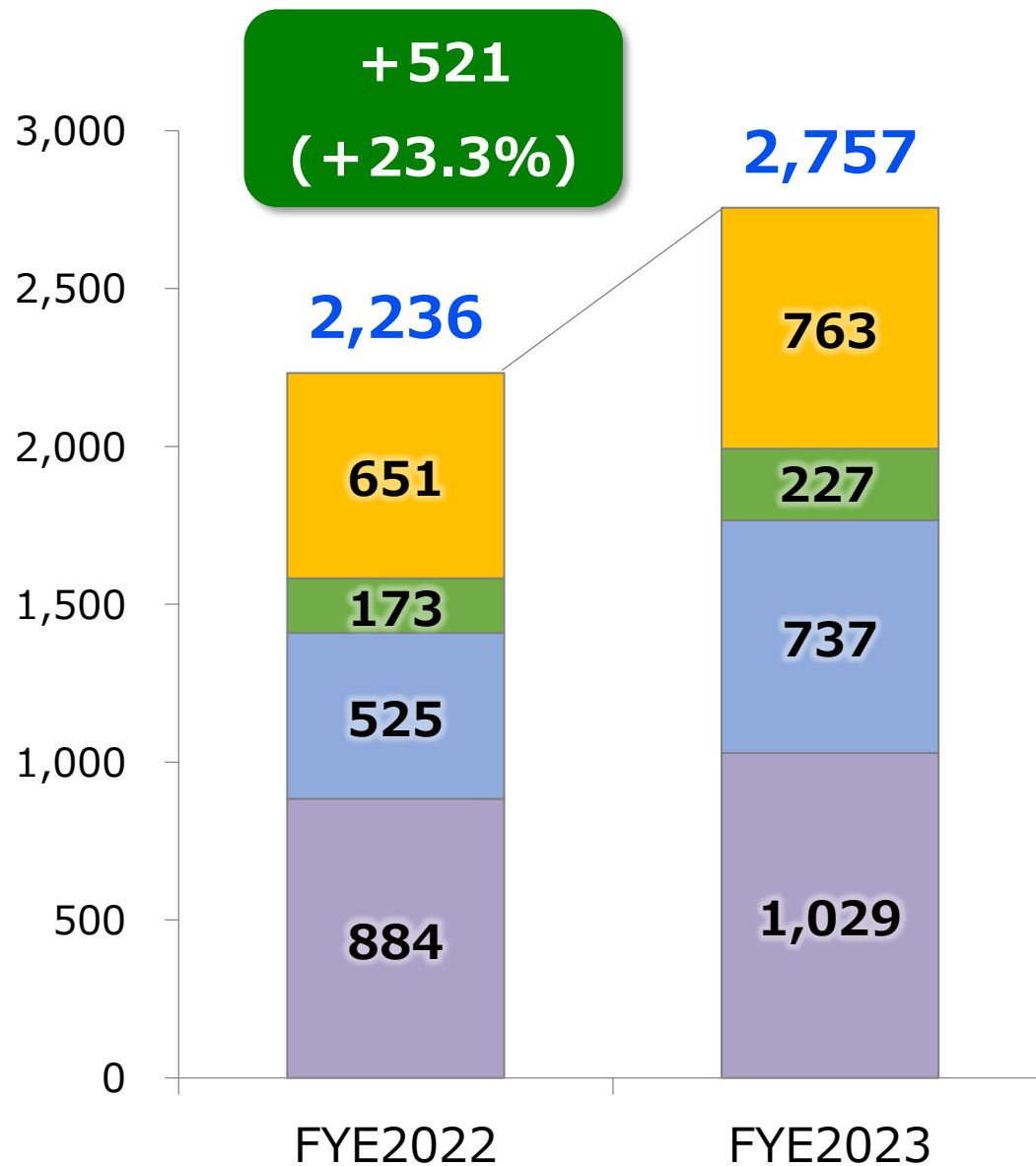
主な増減要因

Main reasons for increase/decrease

◇ 車載部品	Automotive	+ 4 5 6
四輪計器	Automobiles	+ 3 1 3
二輪計器	Motorcycles	+ 1 3 7
汎用計器	Generic	- 2
◇ 民生部品	Consumer	+ 6 9
◇ 自動車販売	Car sales	+ 9

- その他 : Others
- 自動車販売 : Car sales
- ディスプレイ : Display
- 樹脂コンパウンド : Resin Compound
- 民生部品 : Consumer
- 車載EMS : Automotive EMS
- 汎用 : Generic
- 二輪 : Motorcycles
- 四輪 : Automobiles

Unit: 100 Million yen



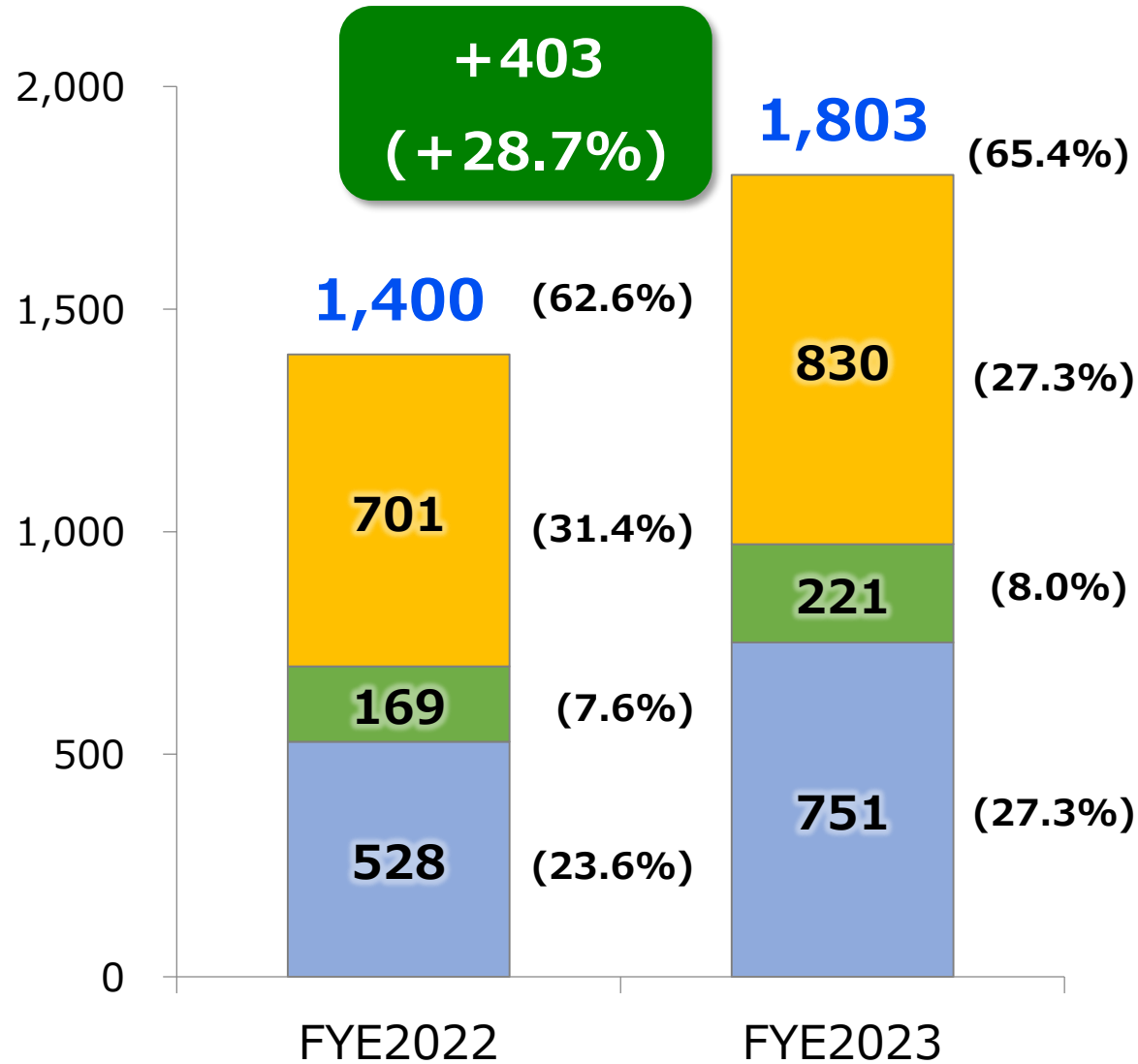
主な増減要因

Main reasons for increase/decrease

◇ Japan		
四輪計器	Automobiles	+ 7 6
民生部品	Consumer	+ 4 1
二輪計器	Motorcycles	+ 1 2
◇ Americas		
四輪計器	Automobiles	+ 1 8 3
◇ Europe		
四輪計器	Automobiles	+ 5 3
◇ Asia		
二輪計器	Motorcycles	+ 9 5
四輪計器	Automobiles	- 1 8

- Asia
- Europe
- Americas
- Japan

Unit: 100 Million yen



主な増減要因

Main reasons for increase/decrease

◇ Americas

STELLANTIS・GM向けが増加

Increased sales to STELLANTIS and GM

◇ Europe

Mercedes-Benz・BMW向けが増加

Increased sales to Mercedes-Benz and BMW

◇ Asia

GM・マツダ向けが減少

Decrease in sales to GM and Mazda

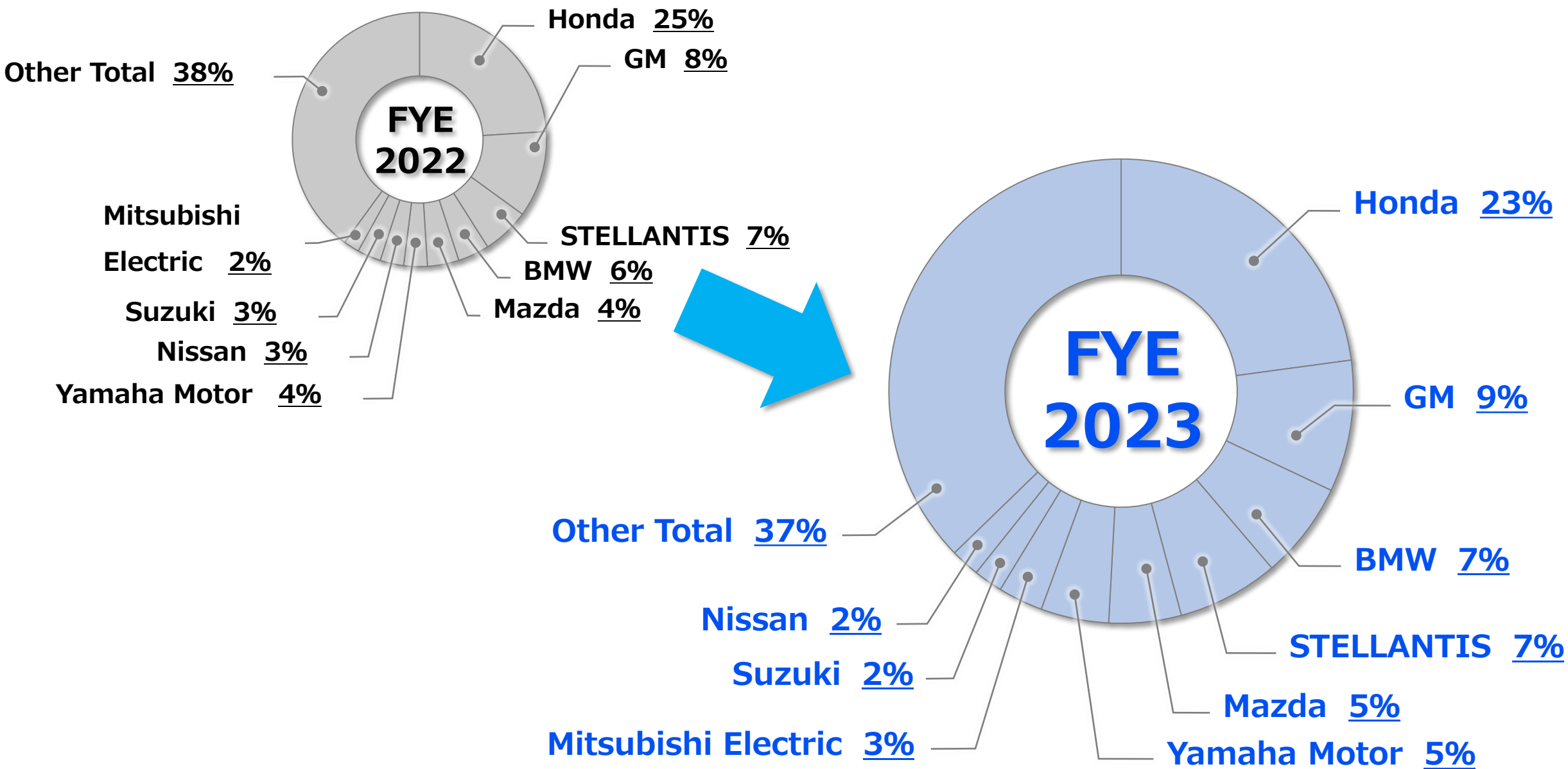
■ Asia

■ Europe

■ Americas

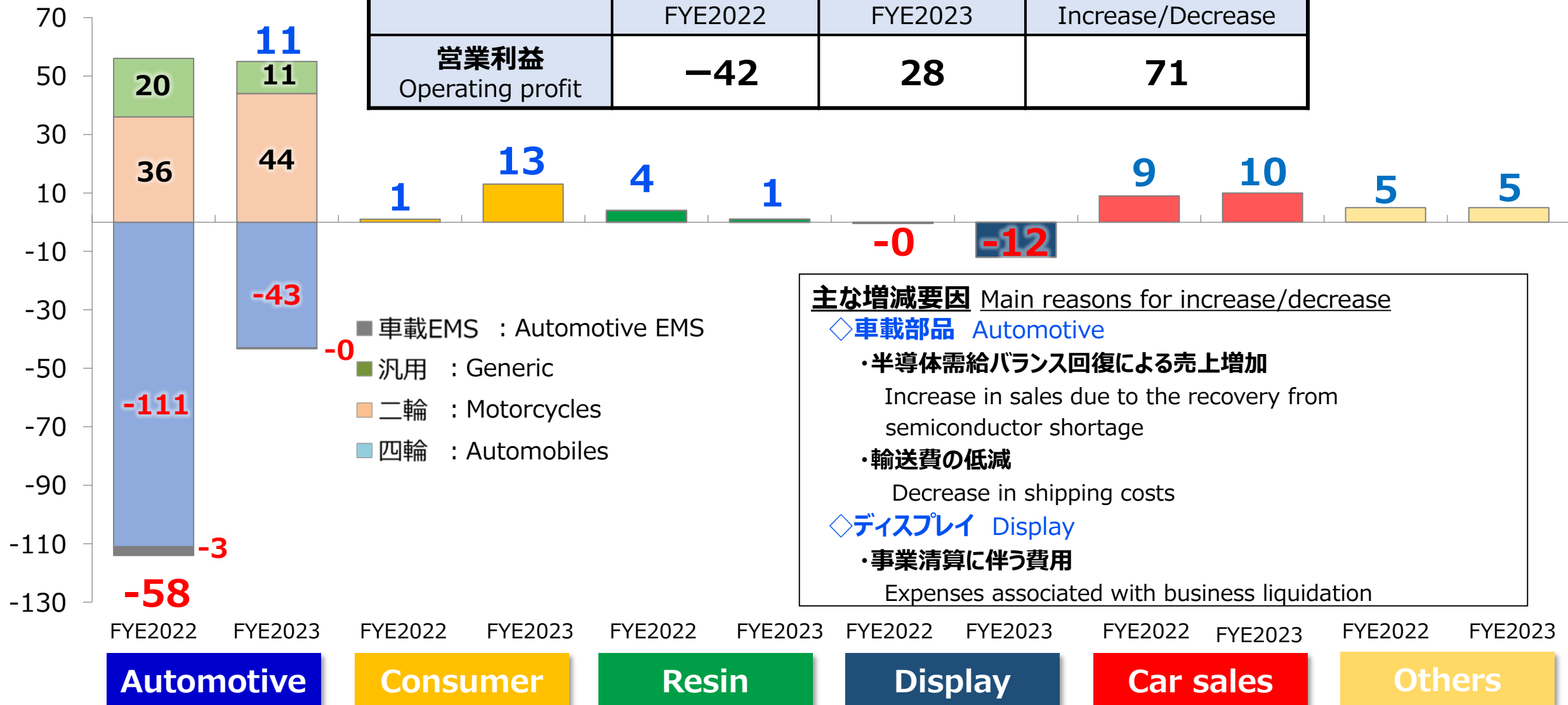
※ () 内は連結売上高に占める海外売上高の割合

Figures in parentheses indicate the ratio of overseas sales to consolidated sales.



Unit: 100 Million yen

	'22年3月期 FYE2022	'23年3月期 FYE2023	増減 Increase/Decrease
営業利益 Operating profit	-42	28	71

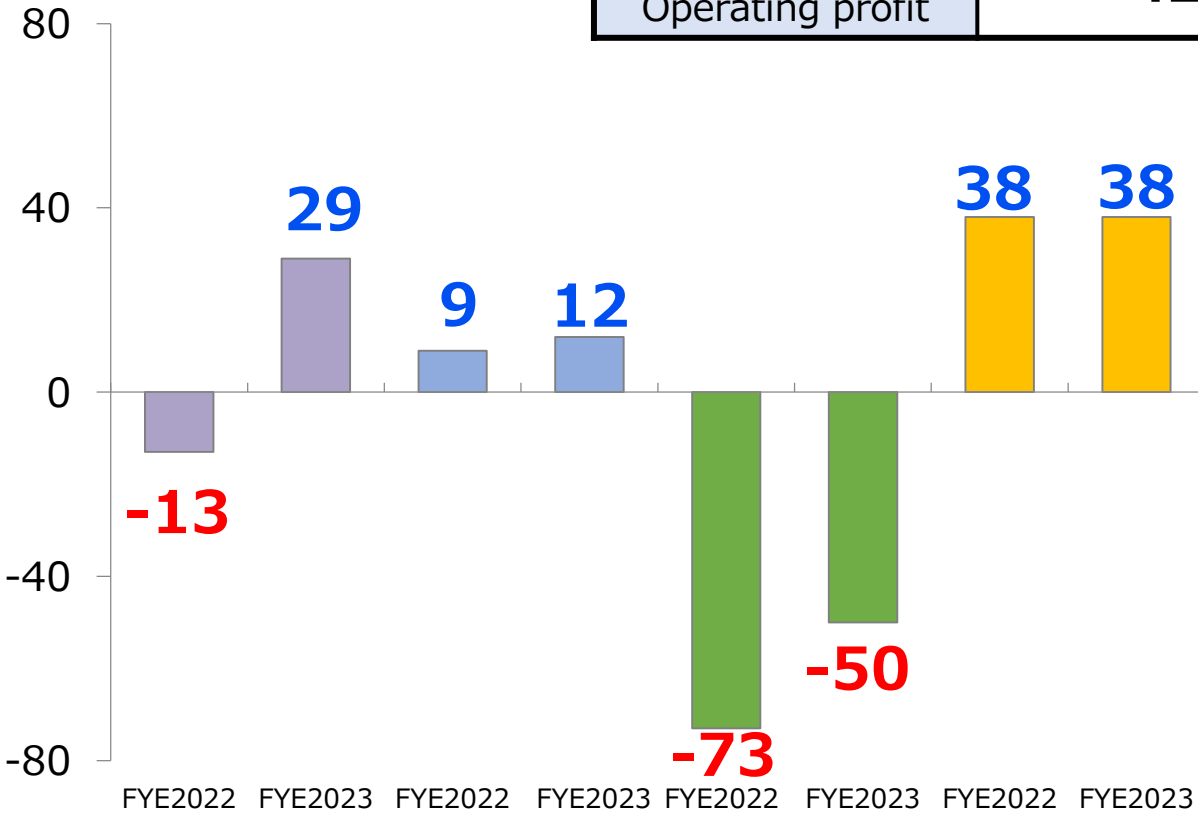


所在地別 営業利益

Operating profit by Geographic Segment

Unit: 100 Million yen

	'22年3月期 FYE2022	'23年3月期 FYE2023	増減 Increase/Decrease
営業利益 Operating profit	-42	28	71



主な増減要因 Main reasons for increase/decrease

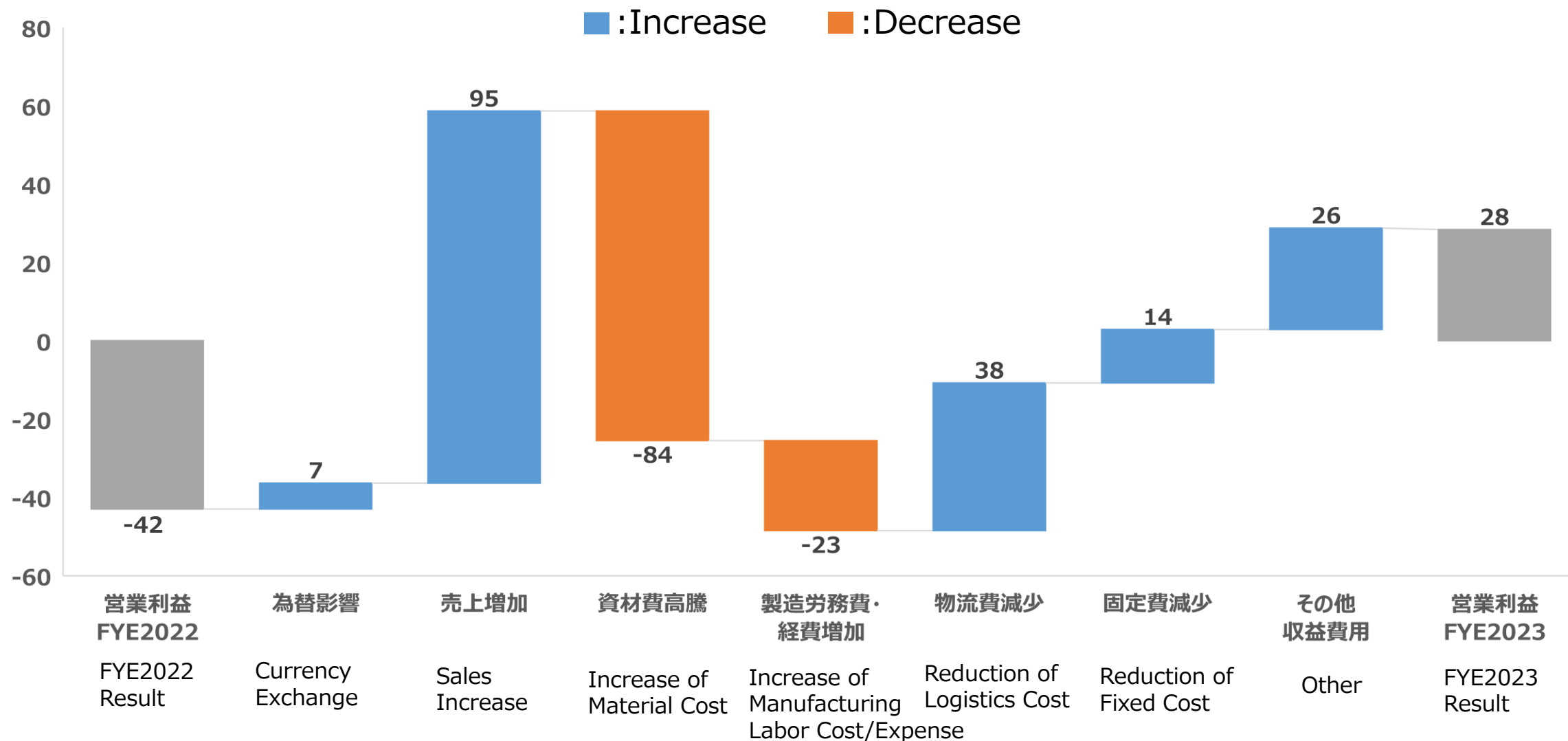
- ◇ 日本 Japan
 - ・ 輸送費の低減
Decrease in shipping costs
- ◇ 欧州 Europe
 - ・ 前期減損損失の計上からの回復
Recovery from impairment loss in FYE2022



前年同期比 営業利益 増減要因

Operating Profit Increase/Decrease Factors

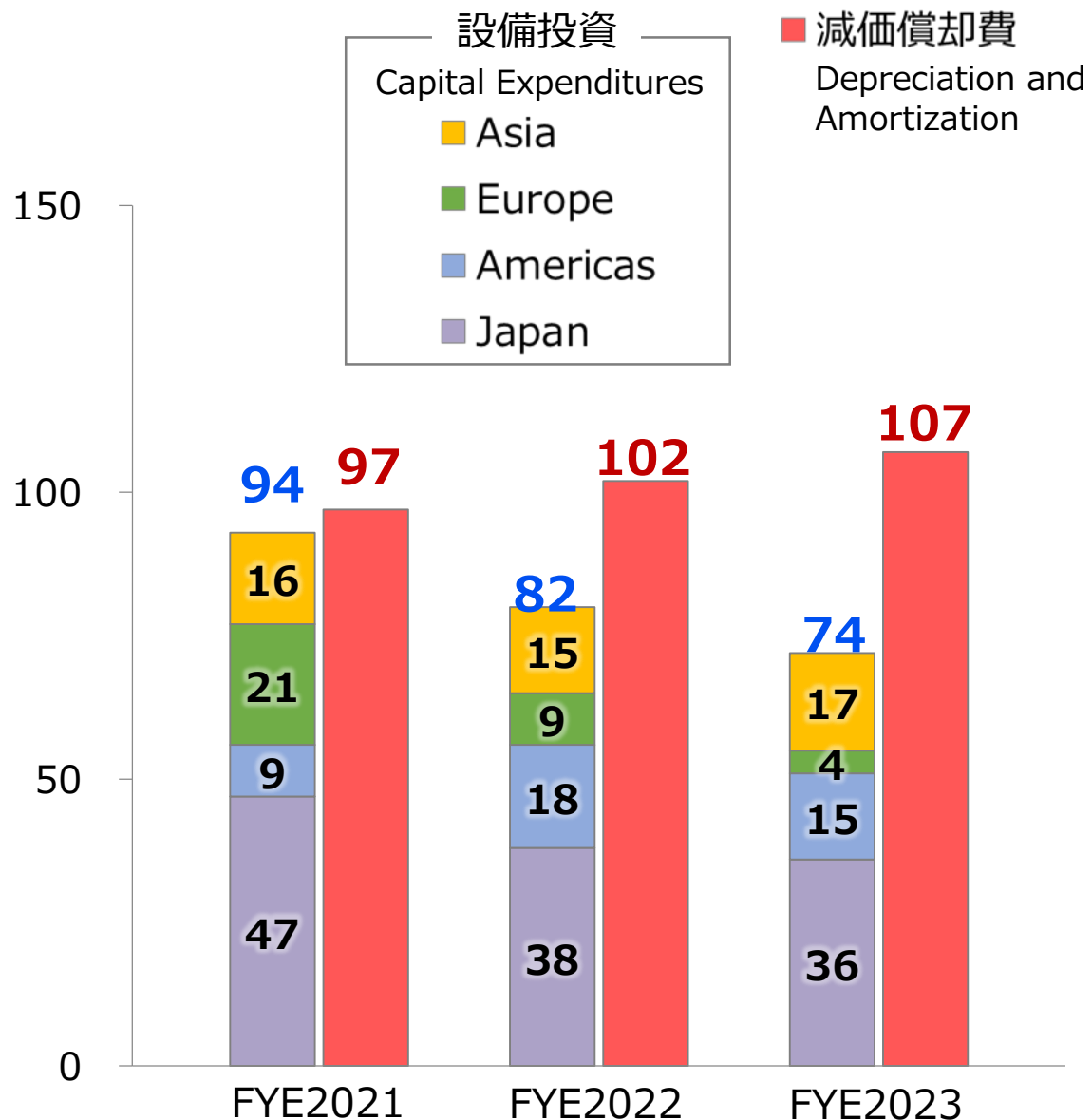
Unit: 100 Million yen



設備投資額、減価償却費

Capital Expenditures, Depreciation and Amortization

Unit: 100 Million yen



【地域別内訳】

Breakdown by Region

(主な投資内容)

(Major Investments)

Asia 17.6 億円

TNS (タイ) : 5.4 億円 (新機種対応)

NSIP (インド) : 3.5 億円 (新機種対応)

Europe 4.4 億円

NSPL (ポーランド) : 5.9 億円 (新機種対応)

Americas 15.8 億円

NSMX (メキシコ) : 9.6 億円 (新機種対応)

NSII (アメリカ) : 2.7 億円 (新機種対応)

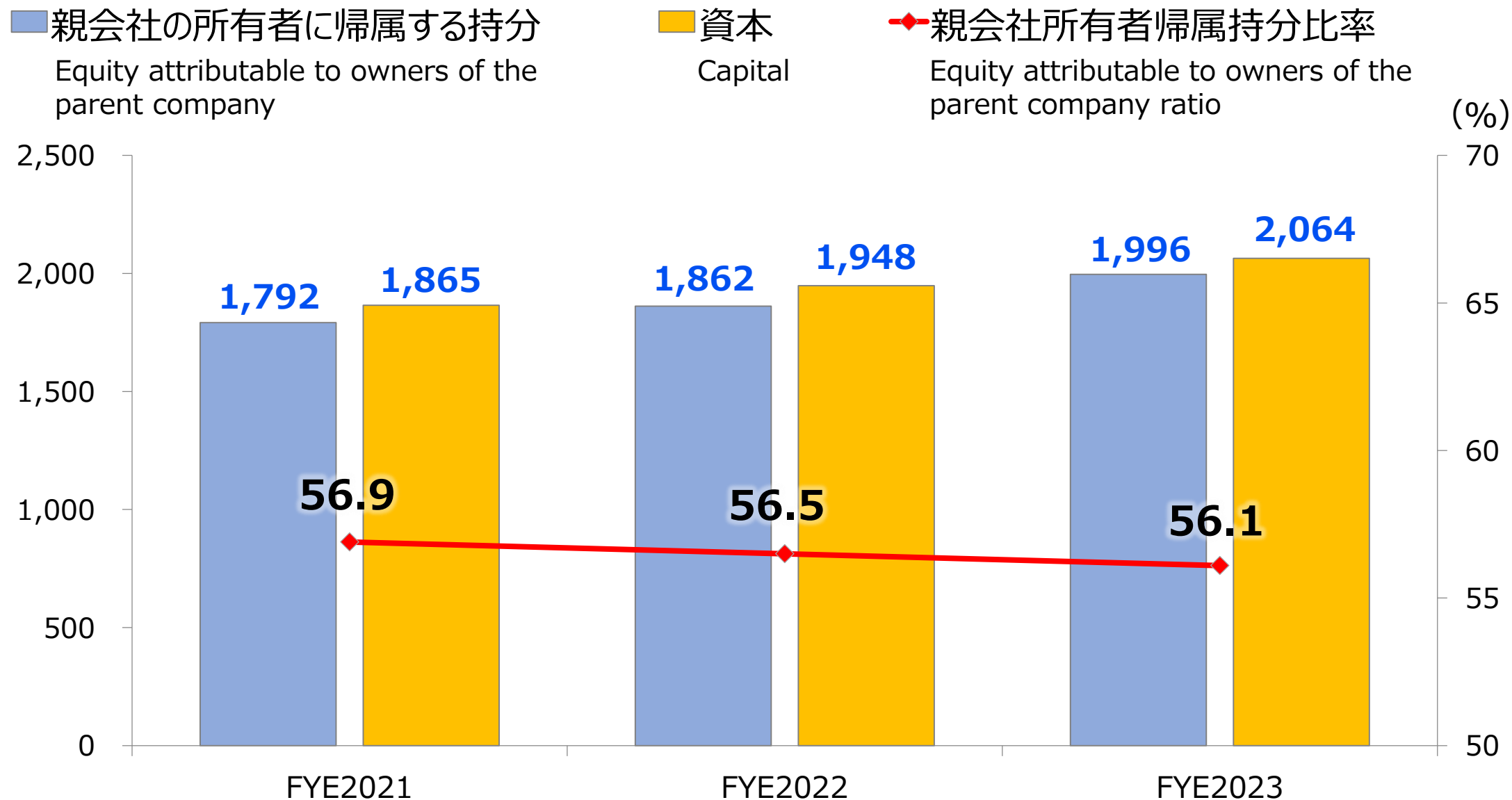
Japan 36.4 億円

本社 : 11.6 億円 (新機種対応)

自己資本額、自己資本比率

Own capital amount, Own capital ratio

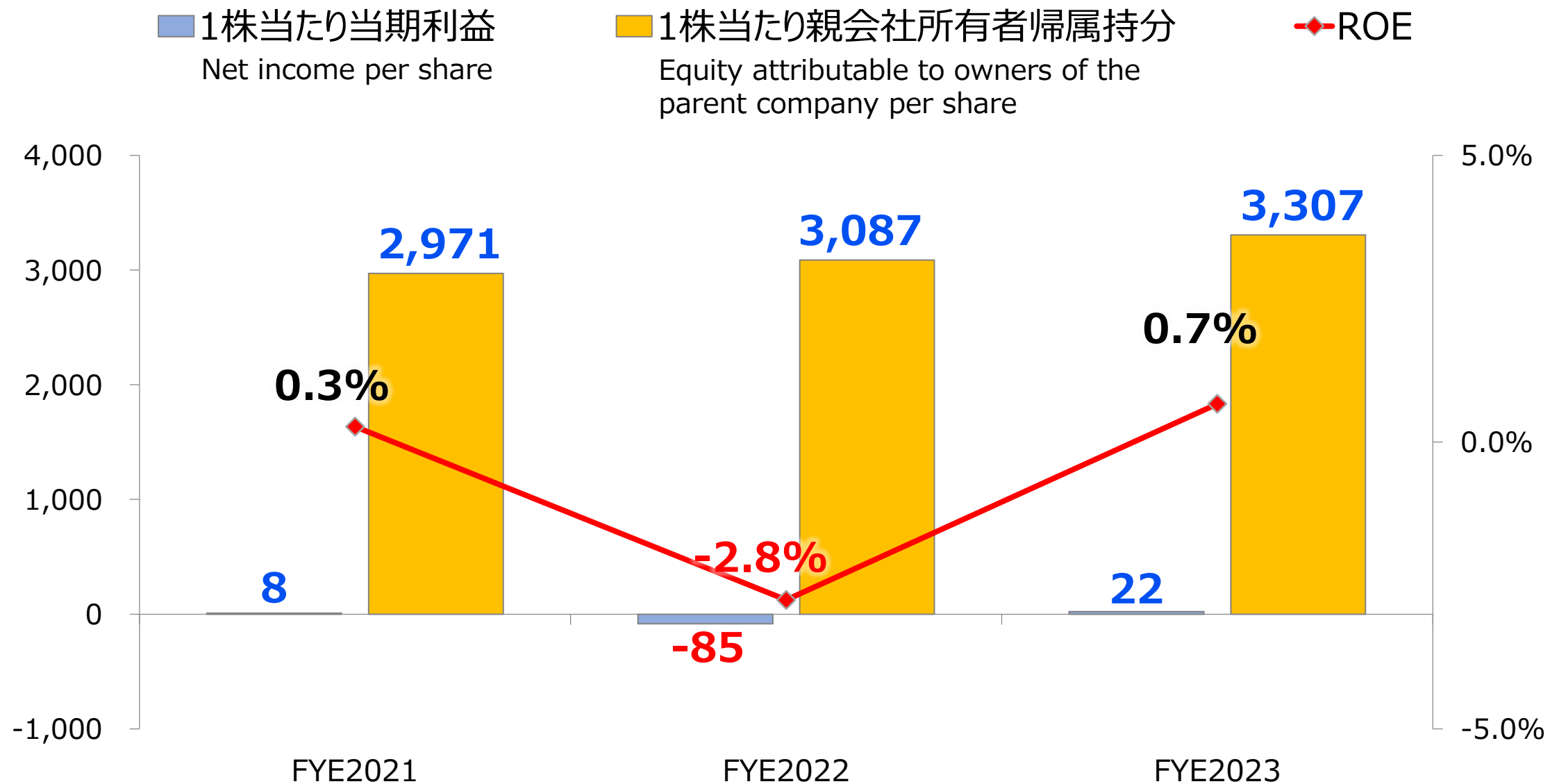
Unit: 100 Million yen



ROE (株主資本利益率)

Return on equity

Unit: Yen



Unit: Million yen

	'24年3月期（今期予測） FYE2024（Forecast for this term）
売上収益 Net sales	281,000
営業利益 Operating profit	3,500
親会社の所有者に帰属する当期利益 Net income attributable to owners of the parent	1,800
基本的 1株当たり当期利益 Net basic earnings per share	29.83 yen
為替（US\$） Exchange	125.00 yen

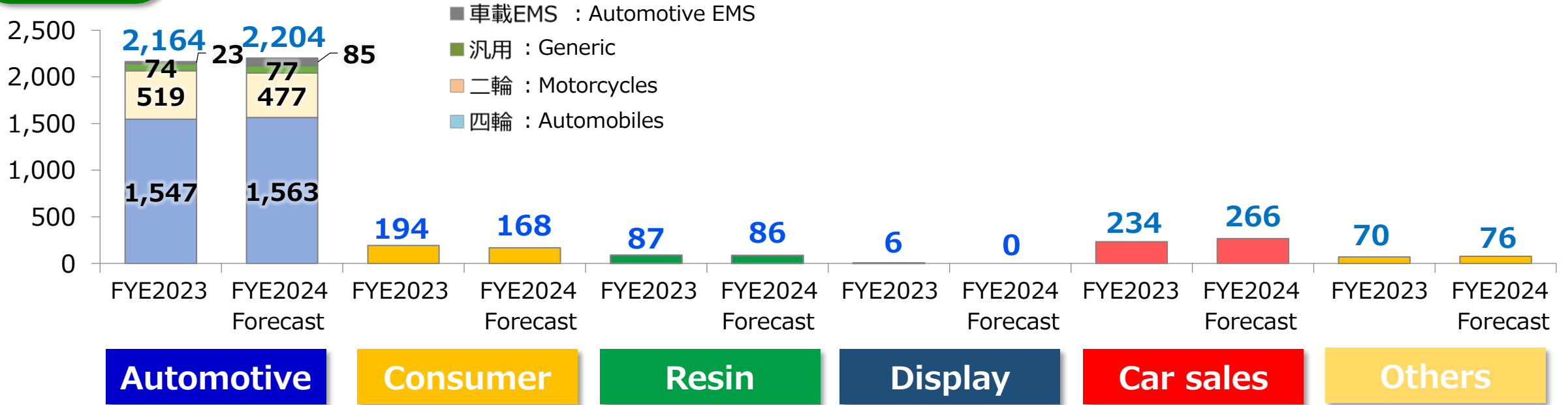
業績予想 (事業別)

Year forecast (by business segment)

売上収益

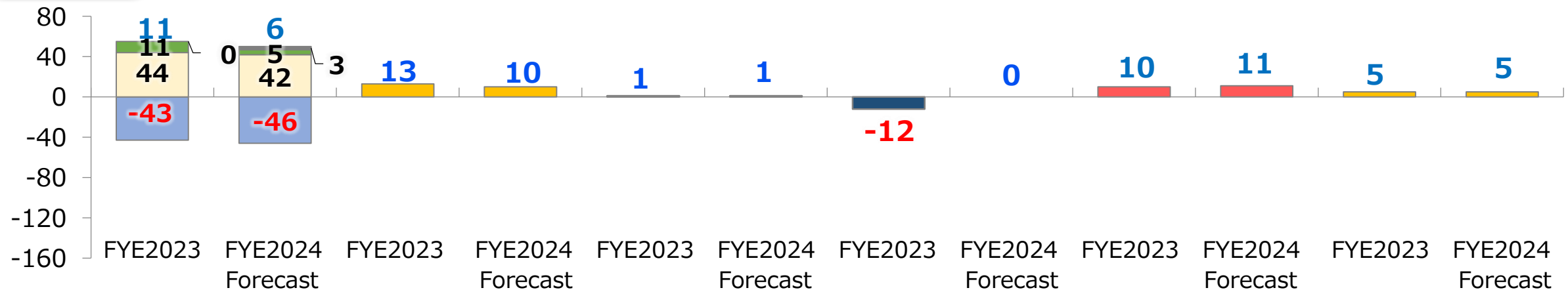
Net sales

Unit: 100 Million yen



営業利益

Operating profit



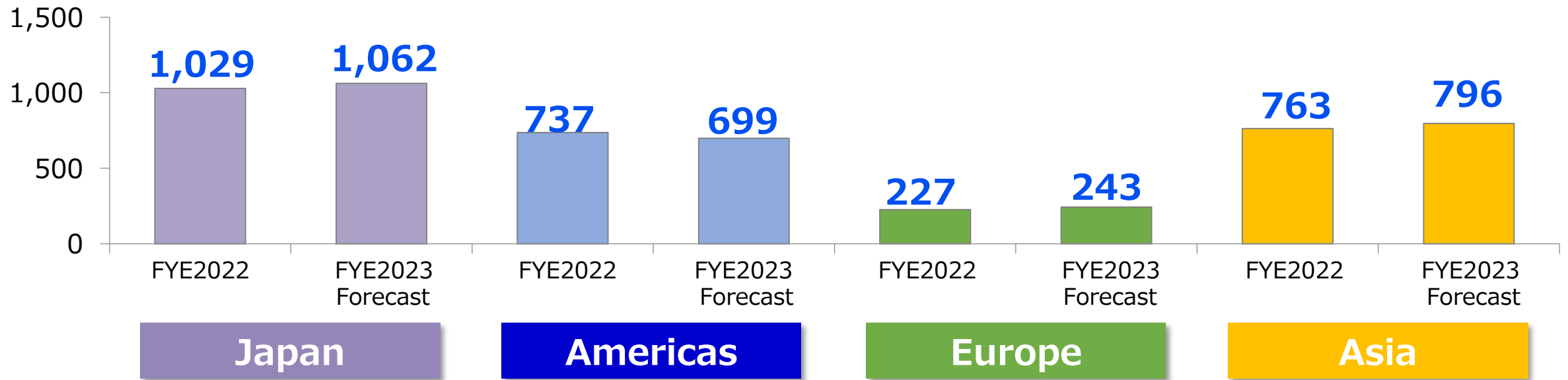
業績予想 (所在地別)

Year forecast (by Geographic Segment)

売上収益

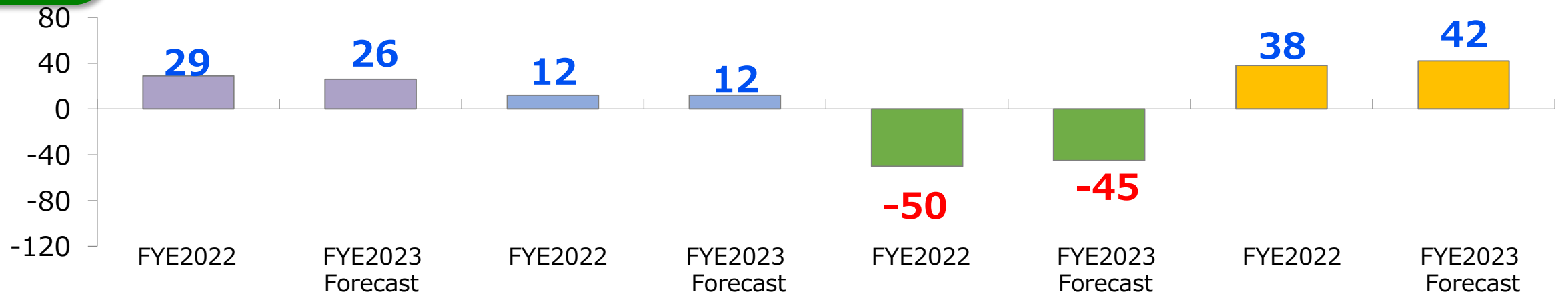
Net sales

Unit: 100 Million yen

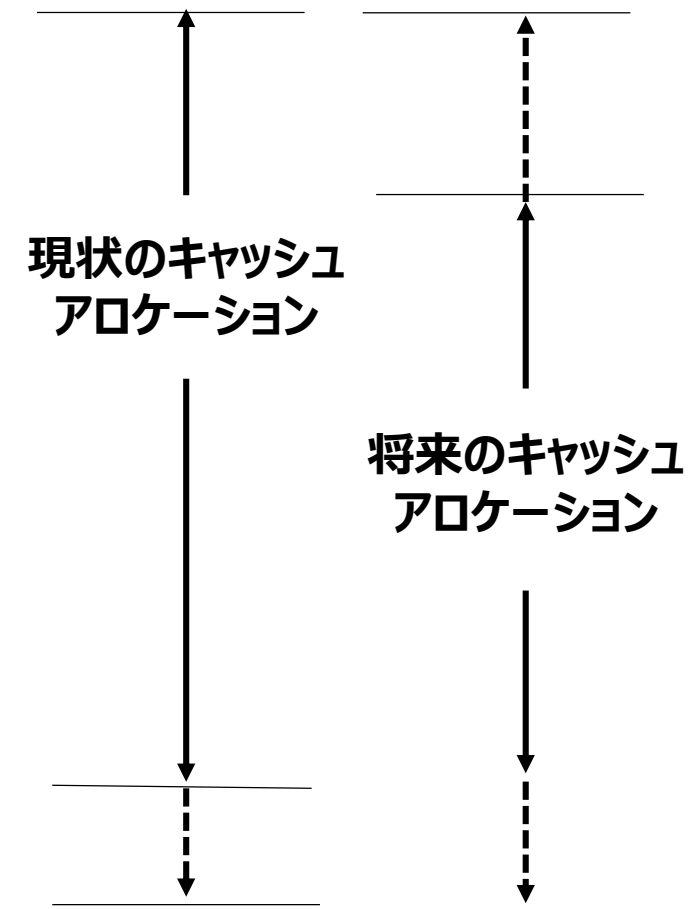


営業利益

Operating profit

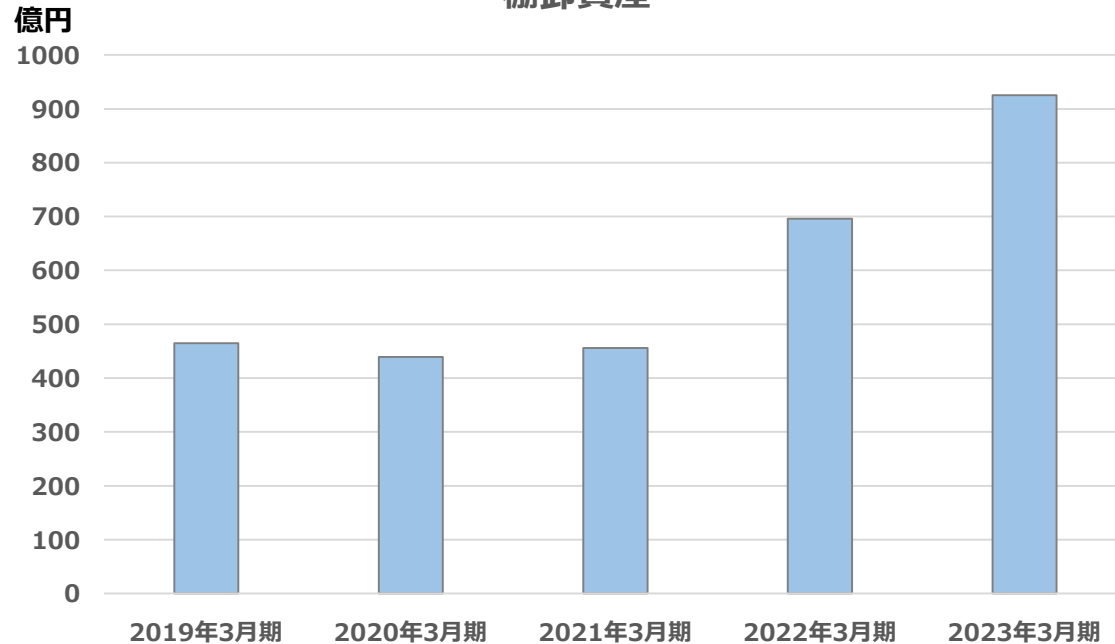


<p>事業環境の変化に備えた 資金の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大など、不測の 環境変化に備えて留保する資金
<p>既存事業の成長に向けた投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産設備投資（新機種対応等） ・研究開発投資、IT投資
<p>新技術・新事業の獲得に 向けた投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術の獲得 ・新事業の獲得（M&A・事業譲受）
<p>ステークホルダーへの還元①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安定配当の継続を基本とする
<p>ステークホルダーへの還元②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己株式の取得

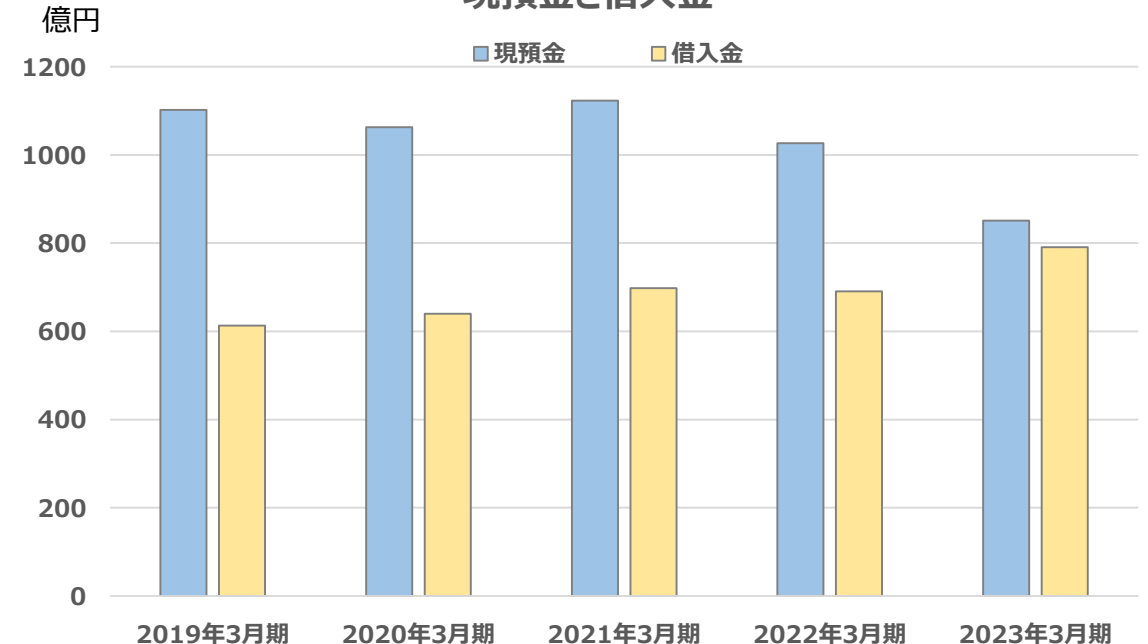


- ・株主配当還元方針の見直しを年内を目途に行い、新中期計画の中で開示していく。
- ・当社グループの事業により稼得したキャッシュの用途としては、事業の成長に向けた生産設備等、新規の技術/事業に振り向ける。

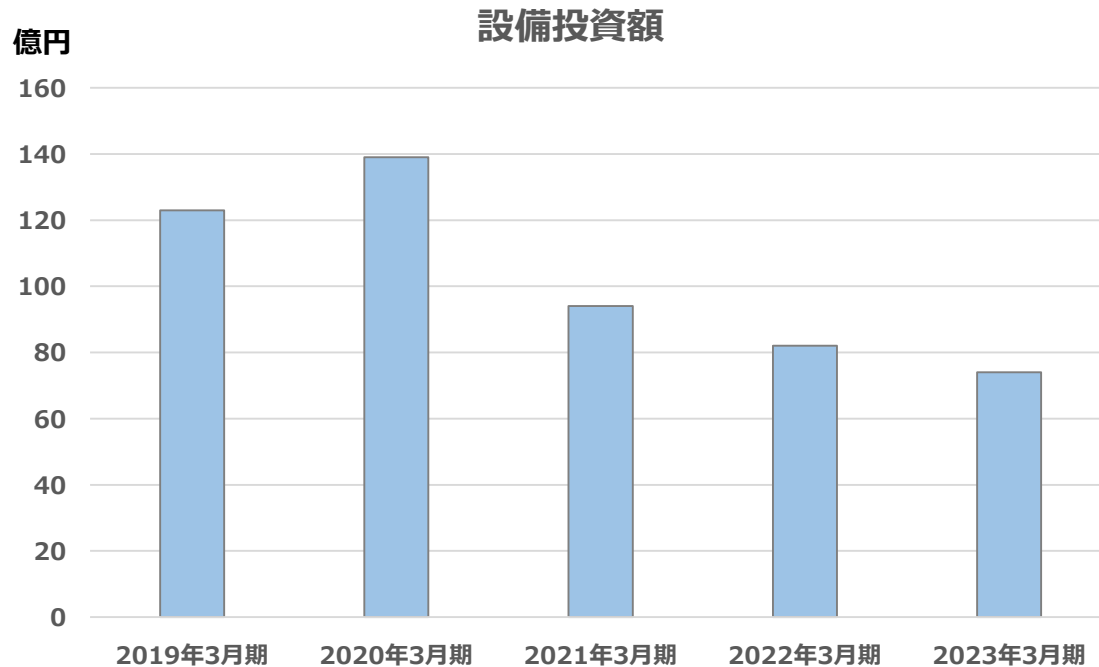
棚卸資産



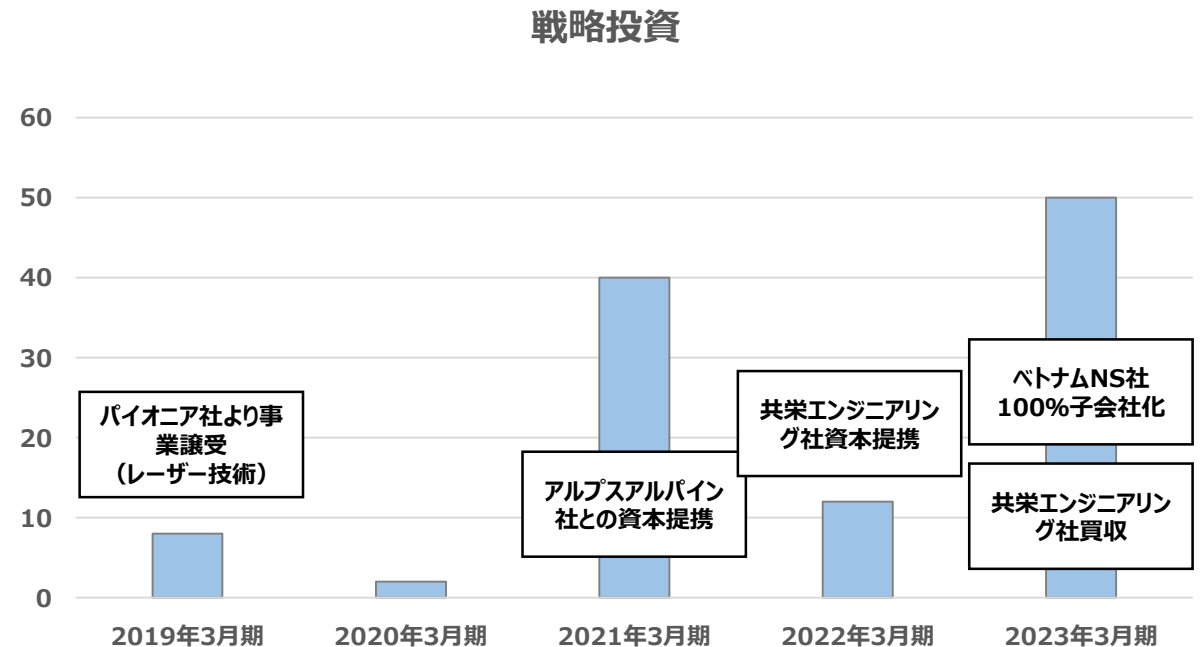
現預金と借入金



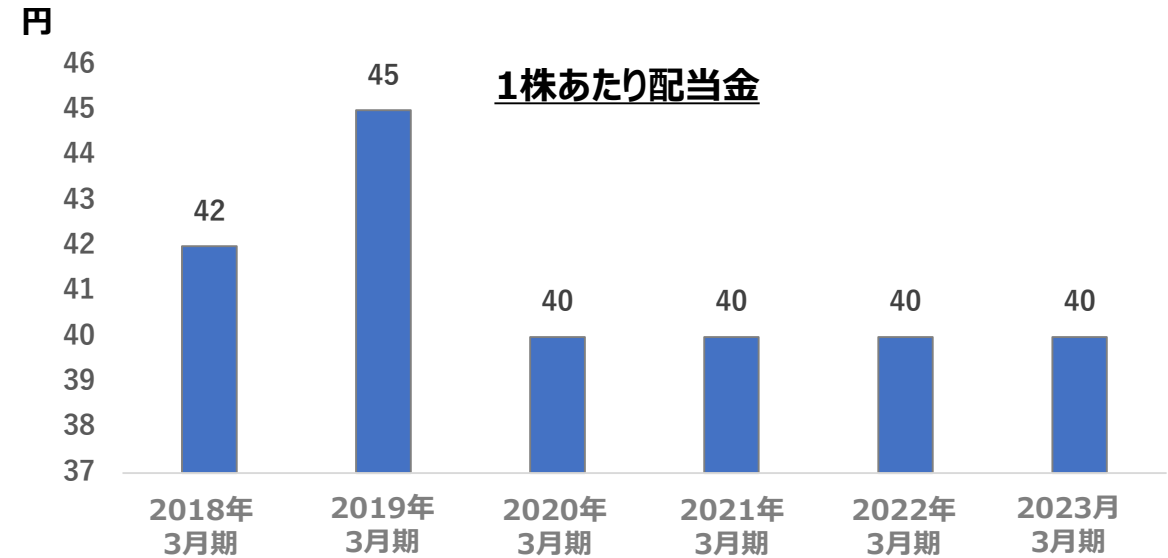
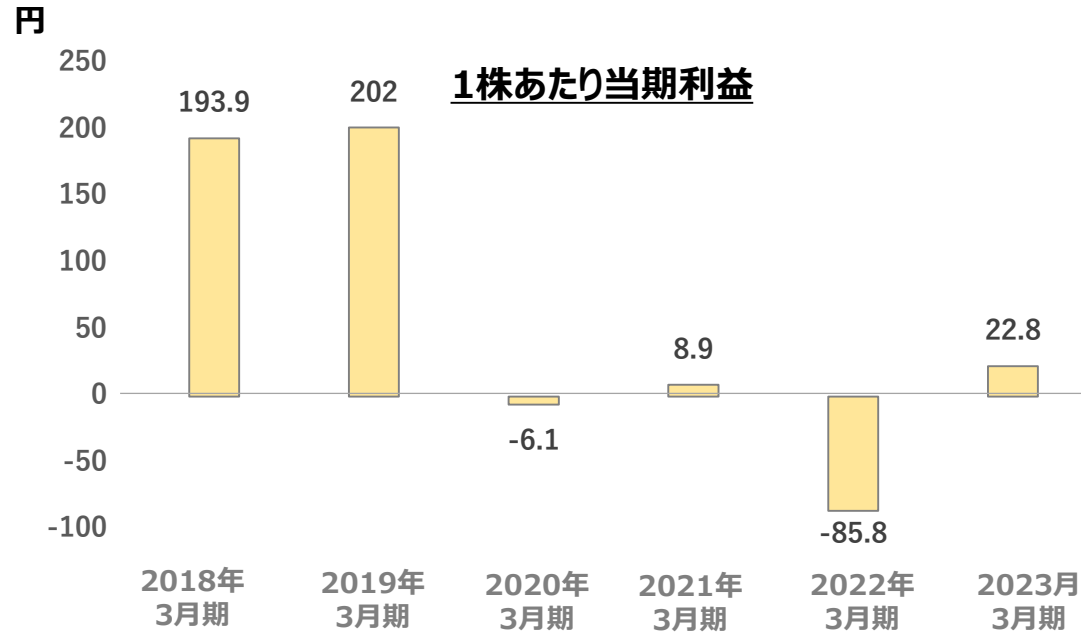
- ・電子部品の供給ひっ迫に端を発し、顧客要請に基づき部品在庫の積み増し、部品サプライヤーからも長期契約を要請される中で、ここ2年で棚卸資産が2021年3月期に比べて約400億円増加→棚卸資産の縮減を早急に進める。
- ・現預金と借入金を両建てで保有しているため、B/Sが肥大化しており、B/Sの適正化を進め、資本効率性を向上させる。



- ・既存事業の成長のために行う、新機種対応投資、能力増強投資などの生産を維持/拡大するための投資を最優先とする。
- ・DX推進、業務効率化を目指したIT関係の投資を含む。
- ・研究開発投資は売上高比3%を目指す。



- ・HUDサプライヤーとして光学系技術、及び、精密加工技術を強化するため、パイオニアの事業譲り受け、共栄エンジニアリングの買収実施。
- ・コクピット統合化を見据えて、アルプスアルパイン社と資本提携。



- ・ 1株あたり当期利益が赤字の場合でも、財務健全性を加味しながら安定配当の方針を継続し、1株あたり40円の配当を維持
- ・ 2020年3月期～2023年3月期の4年間の累計において、1株あたり当期利益の累計は-60.2円に対し、1株あたり160円の配当を実施。

- 2023年3月期 決算概要

FYE2023 Financial Results Summary

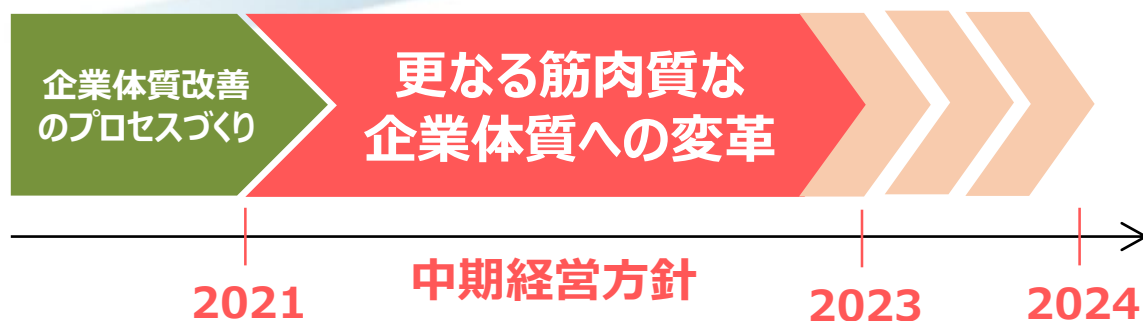
- 中期経営計画達成に向けた取り組み

Medium-term Growth Strategy

経営ビジョン

日本精機グループは、**技術**により、世界の人々に安心・安全、そして、感動を提供する**トータルソリューションカンパニー**を目指します

Facing the future
Challenge & Change
for 2030



中期経営方針

車載事業の経営基盤強化と、サービスを含む事業間連携による新しいビジネスの創造

1. 収益力の強化
2. 経営の効率化
3. 新規ビジネスの実現

2023年度目標

売上高 2,810 億円
 営業利益 35 億円 (1.2%)

2024年度目標

売上高 2,700 億円
 営業利益 135 億円 (5.0%)

売上拡大

- HUDビジネスの拡大
- 統合コックピット受注・拡販活動
- 新商材 WSDのご紹介
- 2輪車・農建機向け計器ビジネスの拡大
- センサー・民生ビジネスの拡大

収益性の向上

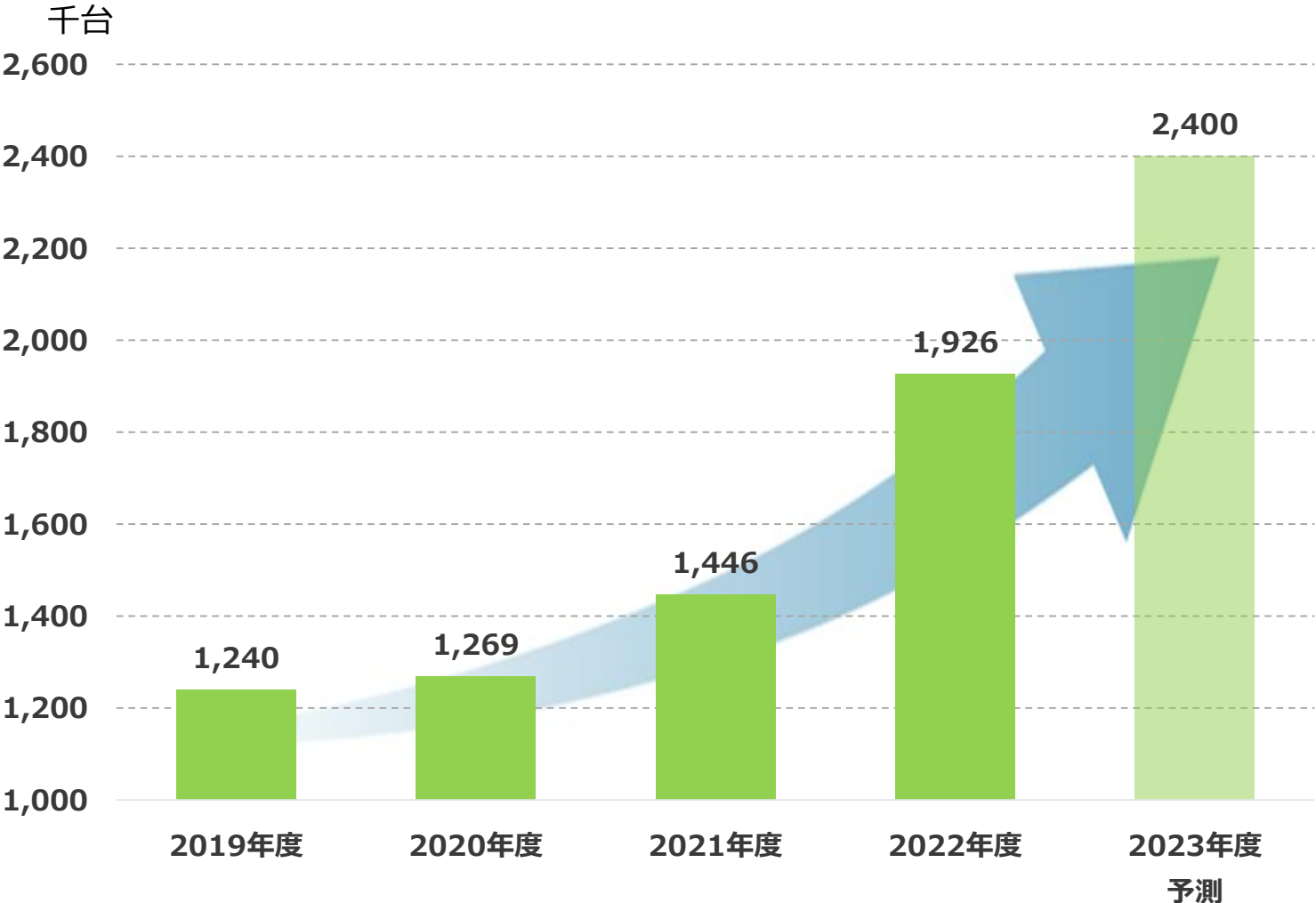
- 中期経営計画 目標利益達成に向けて
- 2022年度 筋肉質経営の成果
- 事業ポートフォリオ

サステナビリティ

- カーボンニュートラルへの取り組み
- カーボンニュートラルコンセプトメーター開発

■ HUDビジネスの拡大

2023年度HUD販売台数予測



2022年度実績 主な増加要因

- ・BMW、メルセデスベンツ、マツダ等 既存顧客向け新機種立上
- ・ポーランド新工場にてHUD量産開始



■ HUDビジネスの拡大

軽自動車・小型車向けHUD拡販活動

既存のHUD搭載車種

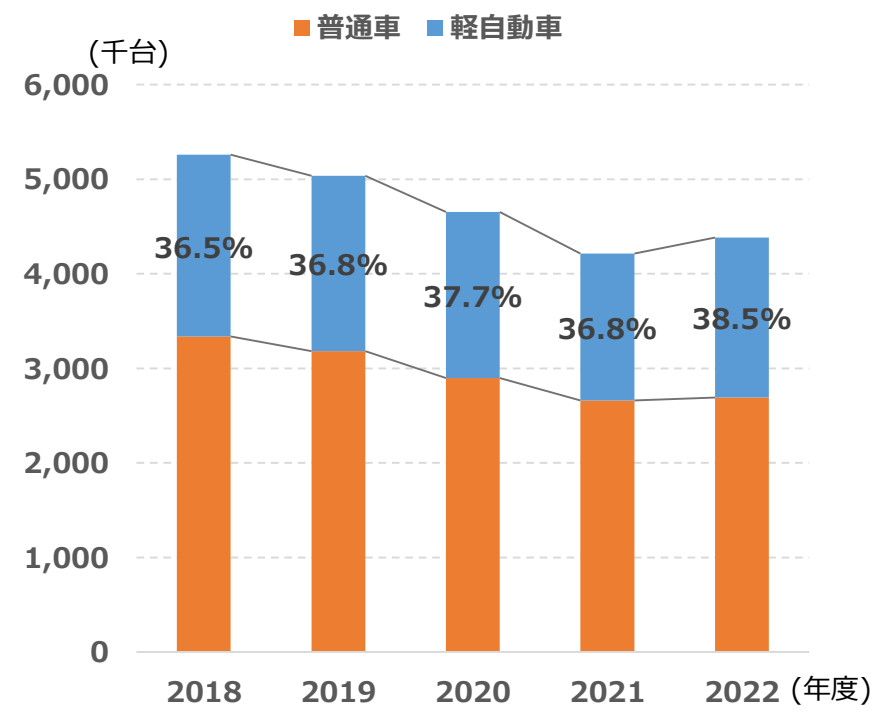
SUV・セダン・ミニバン

+

今後の拡販ターゲット

軽・小型車

軽自動車販売台数



出典：日本自動車販売協会連合会

- ・日系OEM向けに、車両の企画段階からの提案により搭載を促進
- ・小型化、低コストなHUD構造開発により、収益性の確保を図っていく
- ・HUDの普及と売上拡大を狙い、「後付けコンバイナーHUD」商品性評価用試作を製作中、その後量産可否判断を行う

■ **統合コックピット受注・拡販活動**

未来のコックピット共創活動

**2030年以降のコックピット・車室の価値向上に向けた共創活動を、
車両メーカー、他Tier1と合同で実施中**

統合コックピット製品立上予定

2025年末の量産に向け、アルプスアルパインと共同開発中

■ 新商材 WSDのご紹介

※2023年5月 人とくるまのテクノロジー展 出展

WSD : Windshield Display



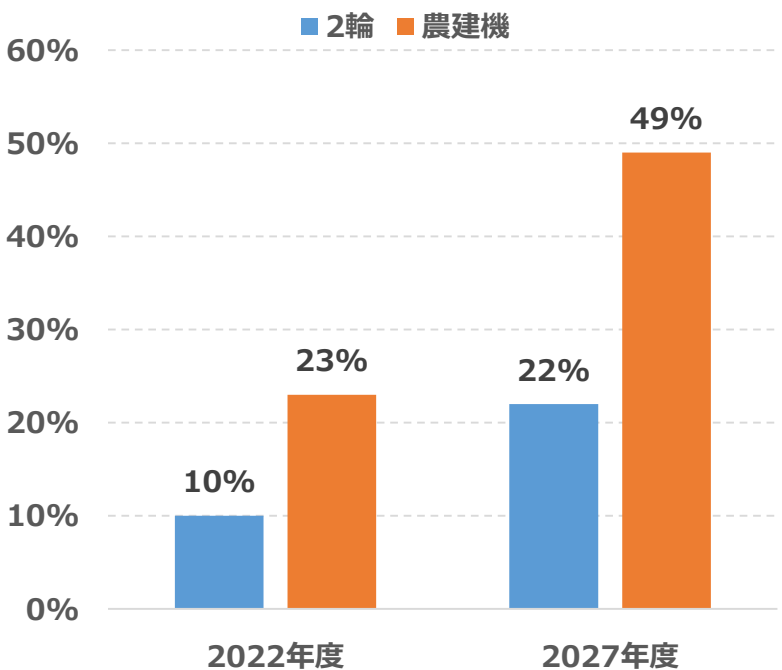
- ・ウインドシールド下部の黒色部に表示を反射させ、従来メータよりも良好な視認性が特徴
- ・HUDとの組み合わせにより、情報認知の時間短縮 ⇒ 安全性の向上や疲労の軽減に貢献

■ 新商材 WSDのご紹介

人とくるまのテクノロジー展 WSD紹介動画

■ 2輪車・農建機向け計器ビジネスの拡大

当社 受注機種TFT(液晶モニタ) 搭載率 予測



TFT(液晶モニタ)搭載増加への対応

2輪車向け計器

- ・廉価パネルのプラットフォーム採用
- ・つながるメータの開発推進

農建機向け計器

- ・サイズ別標準モニタの開発（カタログ化）
- ・表示コントローラ開発リソース拡充

- ・2輪車・農建機向け計器は液晶モニタの搭載が増加見込み
- ・OEM・当社双方の開発工数抑制のためプラットフォーム開発を推進し、競争力を維持する

■ センサー・民生ビジネスの拡大

新規センサー製品の開発

Holfee

2D 簡易 マシンガイダンス

スマホ連動で油圧ショベルアームの深さや角度を把握
 感覚に頼っていた仕事を見える化して、作業初心者をサポート

超音波速度センサーSAW

超音波速度センサー SAW

棒を伝播するSAW (Surface Acoustic Wave: 表面弾性波) の速度を測定して、下記のような媒体の状態を測定することのできるセンサーです。

- ・液位測定
- ・媒体判断
- ・液滴・泡検知 (スイッチ的検知)
- ・温度測定

超音波速度が媒体の状態によって変化することを検知
 用途例：工業廃液の泡発生検知
 食品の乳化状態検知

民生製品 グローバル生産拠点活用



- ・センサー：車載にこだわらず、様々な需要に応えるセンサーのPR加速、受注
- ・民生製品：当社のグローバル拠点を活用し、重点顧客への最適地生産を提案

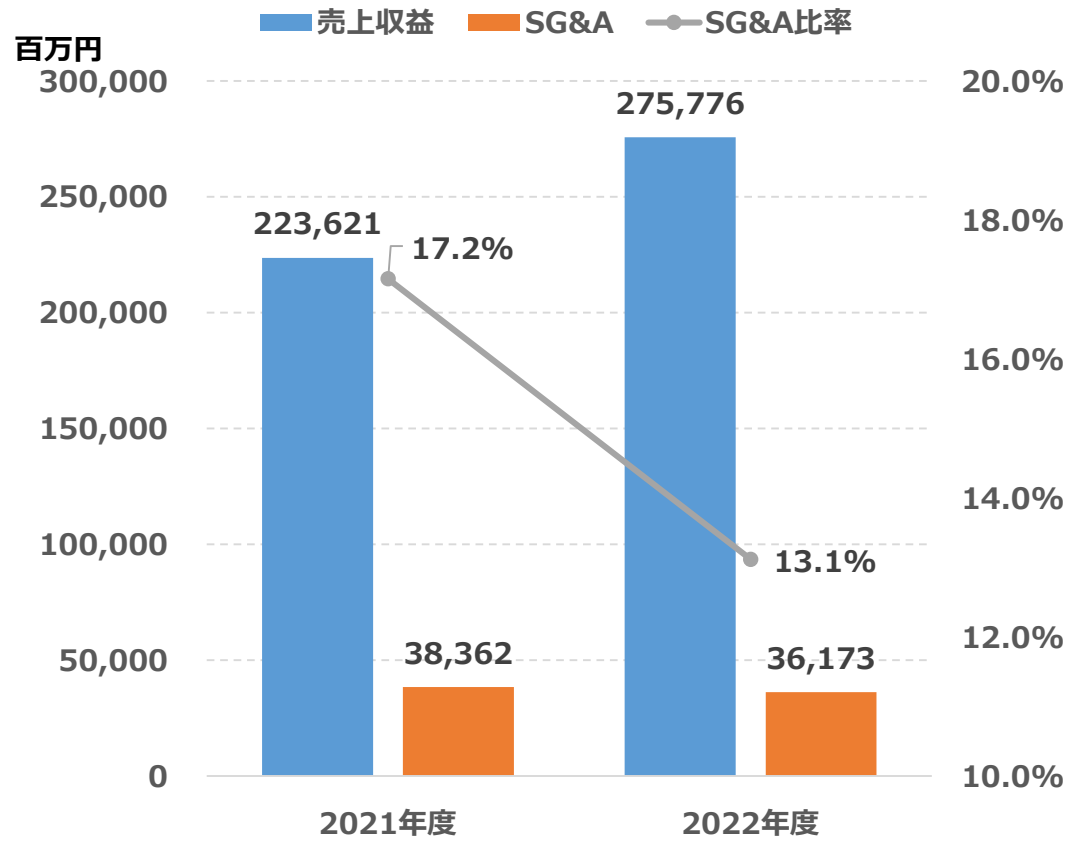
■ 中期経営計画 目標利益達成に向けて

	主な施策	KPI例
売上	原材料高騰分の価格適正化の徹底	価格適正化・航空輸送費回収額
資材費	メーター・HUD VA推進、現地調達促進	VA効果額・現地調達率
設計開発費	欧米からアジアLCCへの開発リソースシフト	設計開発費比率
販管費	関係会社の販管コスト目標設定/管理、シェアード化	販管費
	海外現法の物流費低減支援、梱包仕様の見直し	輸送費比率・梱包費
在庫最適化	長期発注の仕組み構築、現地調達促進	在庫回転月数

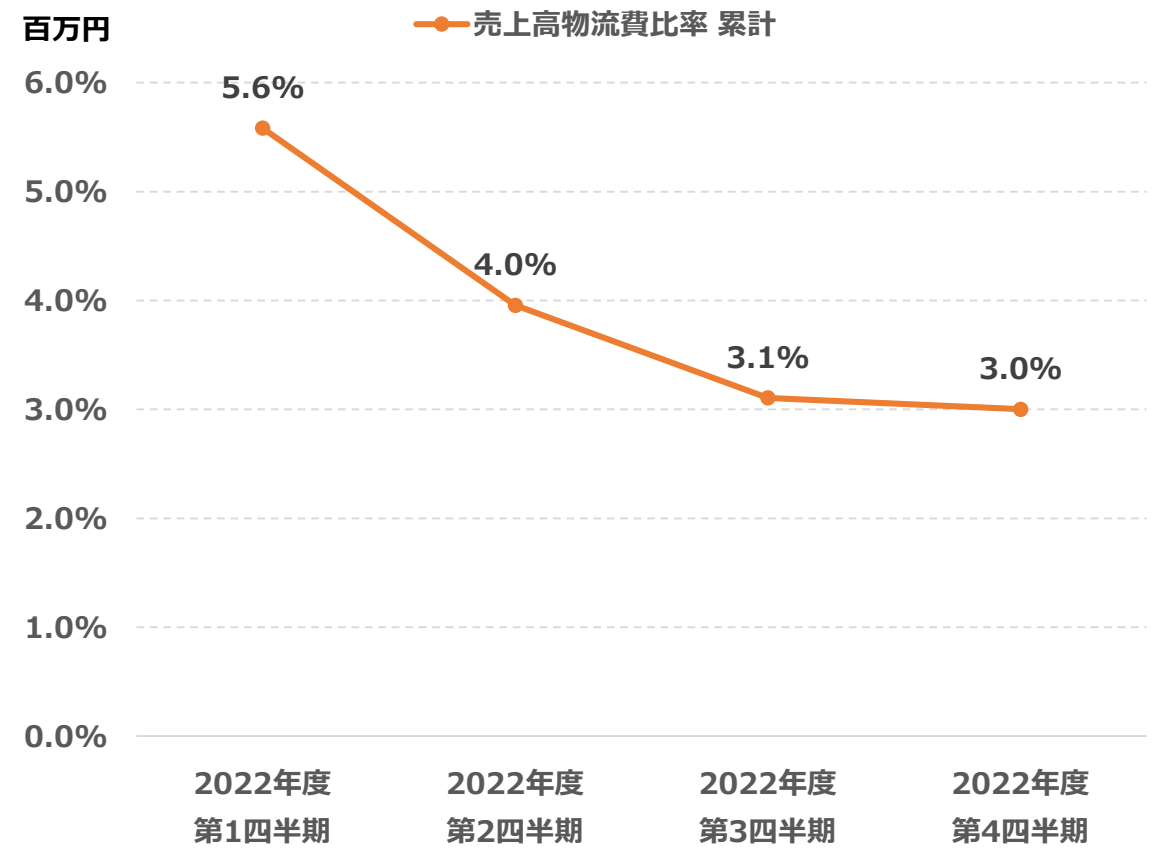
24年度: 5%の目標利益達成に向け、目指すべき原価構成を定義し、各事業/機能で筋肉質化の取組みを加速する。

■ 2022年度 筋肉質経営の成果

連結 SG&A比率について

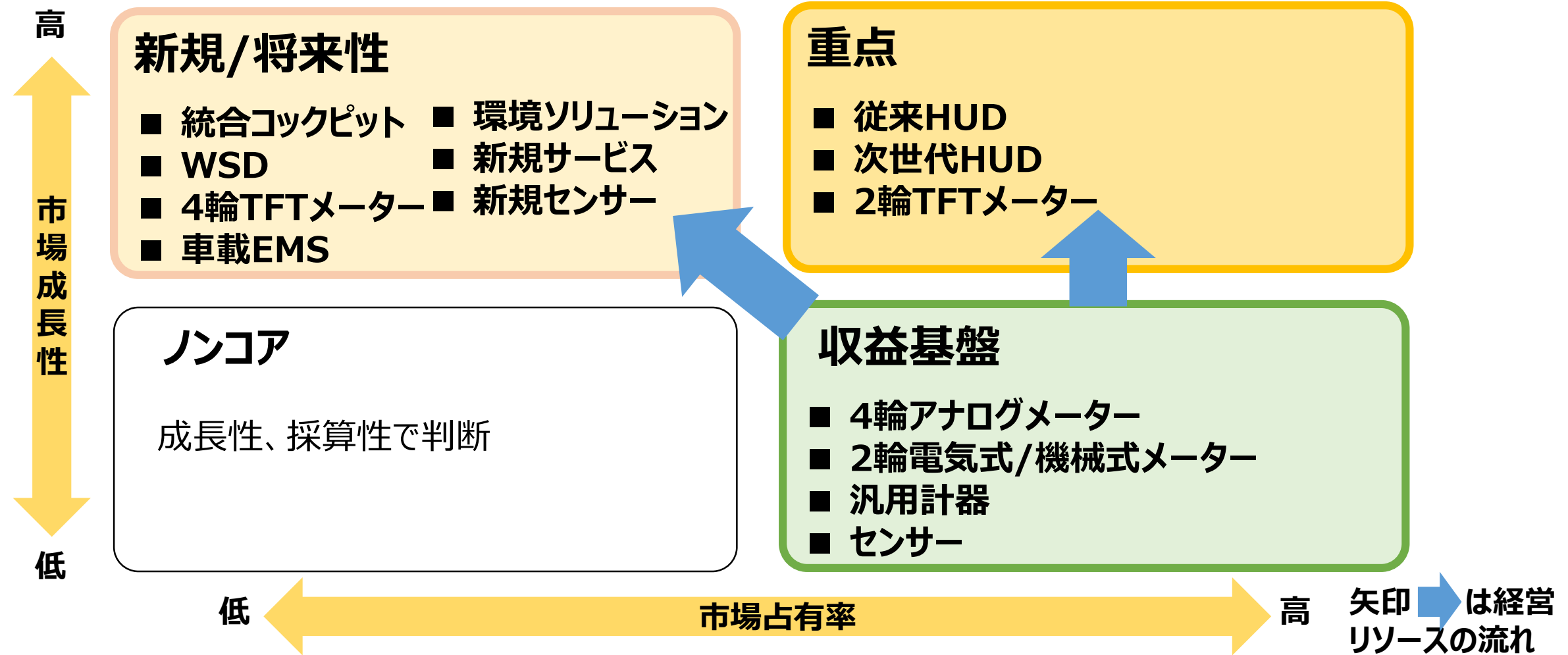


連結 物流費について



2022年度を通じSG&A比率を大きく改善(正常化)。航空便 ⇒ 船便の切替で物流費率が大幅に改善、設計・間接・管理など各機能の費用比率も通期で良化。

■ 事業ポートフォリオ



新規/将来性

- 統合コックピット
- WSD
- 4輪TFTメーター
- 車載EMS
- 環境ソリューション
- 新規サービス
- 新規センサー

重点

- 従来HUD
- 次世代HUD
- 2輪TFTメーター

コア

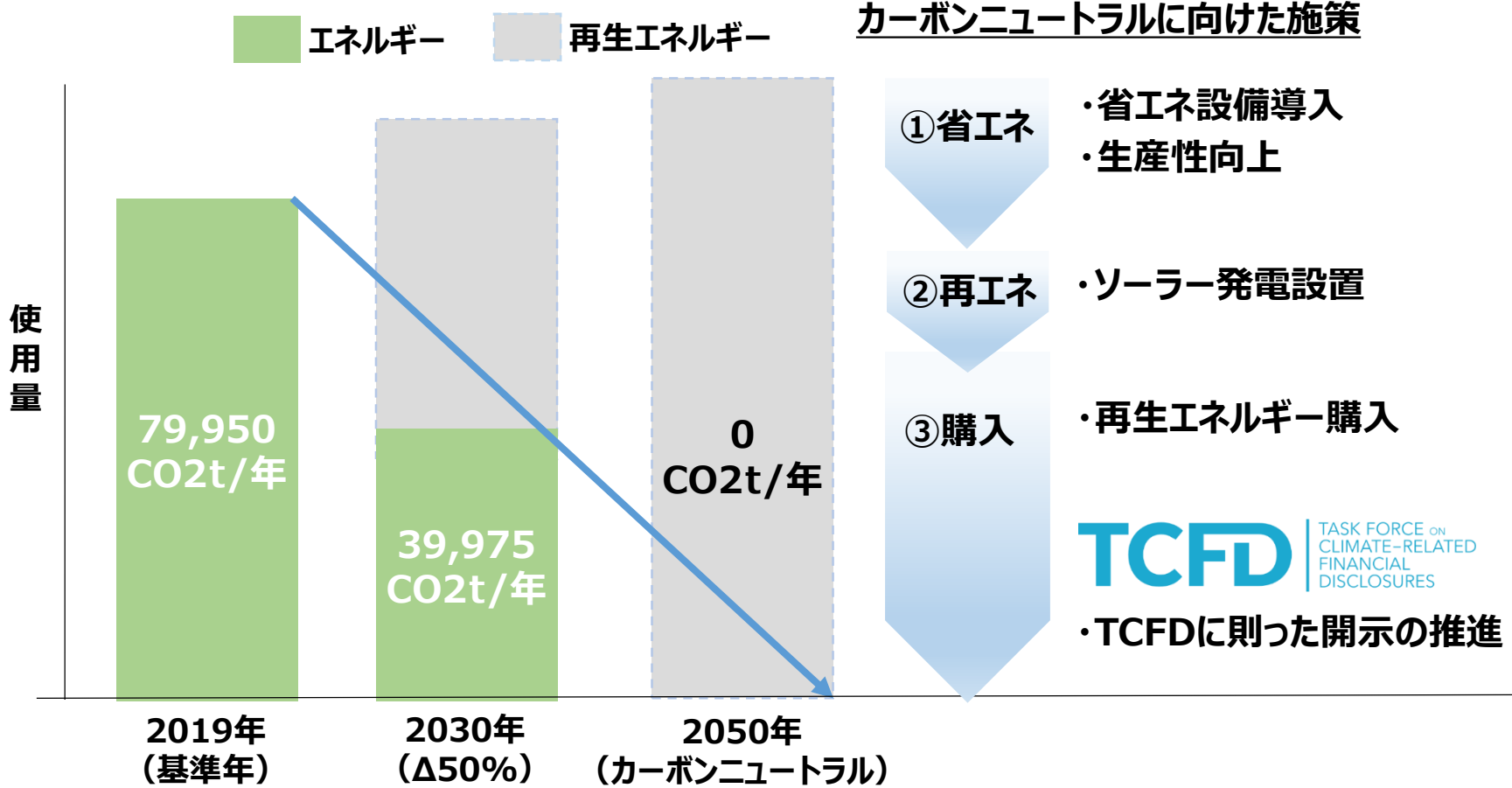
成長性、採算性で判断

収益基盤

- 4輪アナログメーター
- 2輪電気式/機械式メーター
- 汎用計器
- センサー

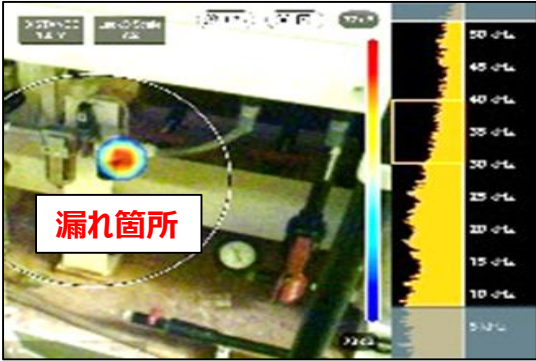
既存事業はコスト改善に注力しつつ、経営リソースを成長事業/新規事業などの拡大領域へシフトする。加えて新商品・サービスの開発を加速させる。

■カーボンニュートラルへの取組み



施策事例

産業用超音波カメラにより微小なコンプレッサー空気漏れを可視化
コンプレッサー消費電力 9%ダウン



エネルギー使用量 2030年 Δ50% 2050年 カーボンニュートラルに向け、省エネ設備導入、ソーラー発電設置、再生エネルギー購入等を推進する

■カーボンニュートラルコンセプトメーター開発

※2023年5月 人とくるまのテクノロジー展 出展

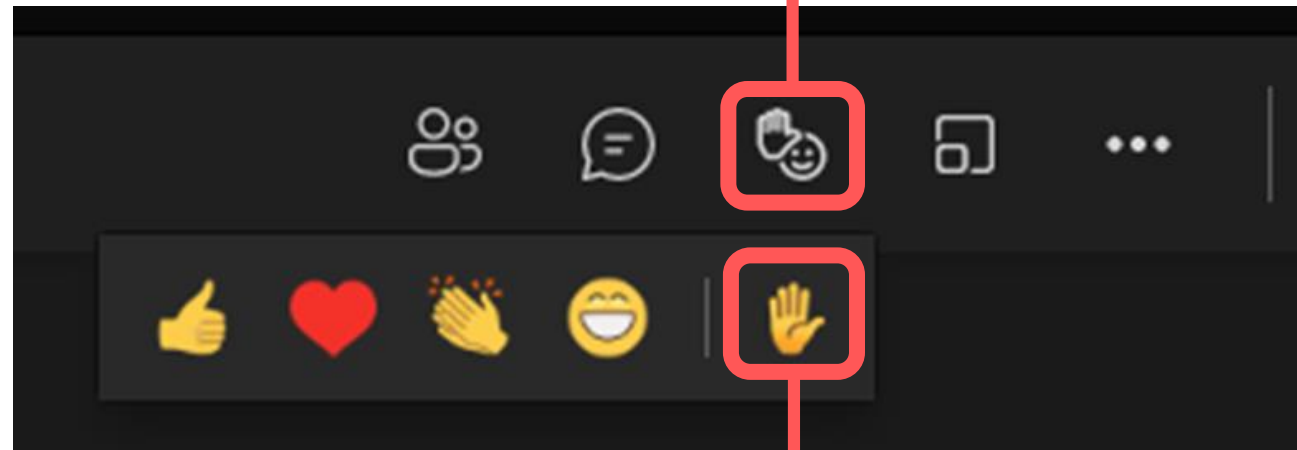


製品開発による環境負荷低減を目指し、カーボンニュートラルメーターを開発中
サステナブルマテリアルを採用し、各部品を成形&印刷、OEMに対しプレゼン

■ 質疑の方法

1. 画面上部の「手を上げる」をクリックしてください
2. 司会から指名された方のみ、マイク機能を ON にして発言をお願いします
3. 質疑が終わりましたら速やかにマイクを OFF にしてください

①マウスカーソルをあわせる



②「手を上げる」をクリック

※質疑後はもう一度クリックし「手を下げて」ください

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより、依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。

Your Safety, Our Delight.

安全と安心に満ちた未来のために

